

令和4年度学校関係者評価報告書

近畿大学附属高等学校・中学校

【1】近畿大学への進学について

大学キャンパスに隣接する近畿大学の附属校としての特性を最大限に活用し、高校課程では、大学各学部による各種講座および実習が実施され、自らのキャリアデザイン構築に結びつけることができる指導を展開し、中学校課程では大学各施設を利活用した「調べる・整理する・話し合う・発表する」の体験型学習が実施されたことが報告された。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、医学部・病院の見学、薬学部での実習などは中止となったが、その他の体験学習・講座などはコロナ禍前に戻りつつあることが報告された。今後も継続して中学校課程では主体的・対話的で深い学びを実現し、高校課程では十分な知識をもち、それを活用した判断力・表現力を発揮できる主体性を育む附属校ならではの指導を展開する必要があるとし、柔軟な思考と学び方を身につけた社会に貢献できる自立した学習者の育成と近畿大学への進学が肝要であることについて理解を得た。

【2】生徒育成の徹底について

登校時間の厳守と遅刻管理システムによる保護者との情報共有を実施し、学校と家庭の両面から遅刻生徒への指導を実現したこと。登下校時に於ける公共交通機関内での周囲への配慮が足りない生徒に対して、年間計画に基づき指導していること。生徒が自律的にマナーを遵守し、思い遣りを行動に移せることのできる指導を展開していることが報告され理解を得た。生徒会が様々なアンケートデータを元に分析し、意見をまとめて校則についてより良い改定に向けて問題提起をしたことが報告された。学年集会、HR活動、サイバーキャンパスを通じて、生徒への問題提起・注意・指導を行うことにより、一人ひとりが大規模校に通う生徒としての自覚を持つ機会となった。その結果、全生徒が本校に対するクレームを自分事として受け止め、自己の行動の変革に繋がったことが報告された。

【3】学習指導の徹底について

iPadの利活用により、中学校課程では「自ら考え・自ら導き出す」授業を展開、ロイロノート・スクールを利活用することにより、生徒が主体的に学べる学習機会が増加している。高校課程ではロイロノート・スクールなど各種アプリを利活用する授業が増加する傾向が続き、授業満足度の肯定的回答率も増えていることが報告された。この数年、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていた中学校課程・高校課程の各種海外研修が実施されたことも報告され理解を得た。教育課程検討委員会を設置し、教育課程を修正し、教育改革推進室中心に授業展開と学習過程評価の定着および観点別評価の実践に取り組んだことについても理解を得た。

本校では早期にICT教育環境を整備したが、生徒一人ひとりが自らの将来の姿を考え、その実現のために必要な学びが能動的にできる教育の場を提供することについて理解を得た。

【4】進路指導の徹底について

特進クラスの群・学年・教科担当者の連携と指導力を強化し、研修会や説明会を通じて生徒の目標達成を支援していること。教員が国公立大学進学情報、在籍生徒の成績分析結果および志望状況に関する情報を共有化した上での細かな進路指導を実施し成果をあげたこと。更に生徒自身が将来像を描き進学目標を定められるよう、講演会や進学イベントを実施したことを報告し理解を得た。次年度も高大接続各種体験型行事への参加をより奨励する必要があることを説明し理解を得た。

【5】健全な経営状況の維持について

光熱水費・高校教室棟南側防音サッシ改修・ブルーコート(旧グリーンコート)改修・教室プロジェクター更改・教職員用パソコン更改等をおこなっていることを報告し、生徒募集人員を充足していることが報告され理解を得た。

以上